

KU-MA とわたし 賛助会員(団体)
 特定非営利活動法人こまき市民活動ネットワーク
 事務局長 関 哲雄

愛知県小牧市の中間支援組織として、市民、NPO 団体、行政、企業など様々なステークホルダーが互いに協力し合いよりよいまちづくりを推進する様コーディネートするいわば「つなぎ役」として活動しています

主な事業

小牧市が設置した「市民交流テラス・ワクティブこまき」の管理運営や、NPO 団体向けの講座や交流会を企画しています。

企業 CSR 支援活動を協働開催

現在 KU-MA とは、小牧市内の企業の社会貢献活動として、その企業の得意とする技術を取り入れた工作体験教室を協働開催させていただいています。

毎年夏休みに近隣の小学生(親子)から募集定員を超える応募があり、趣向を凝らした工作と工場見学会に、みなさん驚きや喜びの声を上げています。

企業からも高評価

企業側からも若手社員が子どものサポートをしたり、社内を案内したり地域と触れ合う大変良い機会だと高評価をいただいております。

体験学習と地域のふれあい

近年インターネットや SNS で情報収集がとても手軽に行える世の中です。そんな世の中であればこそ、自分の目で見て触れてみる体験学習、また地元企業を含めた地域の人たちと触れ合う機会はとても大切だと思います。KU-MA をはじめ、これからも様々な立場の人たちとともに社会貢献を通して子どもたちの探求心や郷土愛を育む機会を作りたいと思います。

KU-MA 設立(2008 年) から 14 年を迎え
 私たちは育み支えます

KU-MA は、個人や企業・団体等、会員の皆様の会費や寄付金により活動を支えていただいております。今回は「宇宙の学校®」や企業 CSR 支援活動で連携している個人・団体会員をご紹介します。



↑ 2021 たまプラザ
 宇宙の学校 開催模様
 柴崎先生(写真)



←オンライン
 特別セミナーの
 画面(下記参照↓)

うちの「宇宙の学校」正会員
 「たまプラザ・宇宙の学校」

会員 柴崎 和夫 元・國學院大學教授
 大学の学部として地域連携の成果となり、参加児童・生徒
 保護者にも喜んでもらえ三方一両得に

開校のきっかけと経過

13 年程前、國學院大學たまプラザキャンパスに「人間開発学部」が新設し、私も広義の「理科教育担当」教員として、新学部の初等教育学科に移籍した。新学部の方針として「地域連携」があり、周辺地域の方々との交流について、企画募集があった。理科教育担当であった私は、すぐ「宇宙」というキーワードが浮かんだ。近隣の小学生を集めての「星の観察会」などは、十分に集客力があるであろう。しかし、このアイデアはすぐに挫折した。種々の制約から、夜間(深夜)のキャンパス立ち入りが教職員さえも禁止なのであった。そんな時に出会ったのが「宇宙の学校」だった。

実は、何時、どのように「宇宙の学校」のことを知ったのかは思い出せない。

KU-MA の名誉会長的川さんは、私の大学の運動部(軟式庭球部・ソフトテニス部)の大先輩。かつて東大宇宙研が駒場にあったころ、現会長の並木さんも一緒にテニスを楽しんだことがあったような(曖昧な記憶です..)

その的川先輩が始めたということをごどこかで聞いたような。

三方一両得

学生にも学びの場になる(少しは理科力も向上?)、学部として地域連携の成果となる、参加児童・生徒・保護者にも喜んでもらえる、三方一両得(?)の企画だと自画自賛した通り、学部でも認められ、費用援助を得られることになった。こうして10年以上継続している「たまプラザ宇宙の学校」が開設できたのである。

この13年の間に、金環食や90%以上が欠ける部分日食、月食、毎年の流星雲などがあり、キャンパスが夜でも解放できればもっと色々な企画も可能だったと、それは残念に思っている。

地元で「宇宙の学校」を

今年3月末で大学は退職して、今は、子供たちの教育の格差連鎖に抵抗するため、ささやかなりとも力になれるよう学習支援のボランティア団体の手伝いをしている。ここさいたま市でも「宇宙の学校」を開設できればうれしいのだが。

「宇宙の学校®」10周年記念事業
 特別セミナー講座をオンラインで
 2022年 3月27日(日)10時~12時30分

本来ならば2019年度に「宇宙の学校10周年記念事業」を全国4会場で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2020年3月に実施を予定していた2会場が延期となりました。「感染状況が改善したら」と開催時期を待っておりましたが思うようにはいかず1~2年が経過。オンライン講座として再構成し、今年3月に実施いたしました。

企画内容

講演1 「宇宙教育と宇宙の学校」

副会長 稲葉 茂

宇宙教育の理念と宇宙の学校について「宇宙教育」という言葉から、「宇宙の事を学ぶ教育」という誤解が生じてしまうことがあります。講演では「宇宙教育」の理念や「宇宙の学校®」を例に宇宙教育活動でめざしていることについて話がありました。

情報交流

宇宙の学校の、長崎会場と網走会場の主催者に、活動例を紹介していただきました。開校した経緯と、メンバーの紹介活動の特色や今後の課題をお話いただきました。どちらも始まってから十年経っていて、継続していくために若いメンバーを入れたいとおっしゃっていました。

講演2

「わたしが宇宙で学んだこと」

理事 清水 幸夫

ISAS(宇宙科学研究所)から、JAXAに移動、勤務しておこなった電気推進の研究開発から、その後、安全品質保証や広報・普及、教育活動に携わるようになりました。そのきっかけ、最近の宇宙情報なども交えてスピーチ。

「わたしが宇宙で学んだことは宇宙の研究や開発を行う最終的な目的は、地球または人類や生物の「未来」を確保し、地球を守ることである」との結論で締めくくりました。その深い想いに感銘を受けた方は多かったのではないかと。

*清水氏は1月に理事に就任しました

【主催者より】

▼参加者に会えないのはちょっと残念でした。しかしオンラインなら会場に行く手間がなくなり、端末と回線さえあればどこからでも参加できるメリットもあります。逆にその環境が身近にないと参加しにくいと感じてしまう場合には、機会が無くなるので、喜んでばかりもいられません。当日は25名が参加。終了後のアンケートにもご協力いただき、好評をいただきました。

▼参加された方の中から、後日、数名の方がご入会いただきました。

有意義な記念事業となりましたことを「報告いたします」。

ホームページの画像から↑

